

稲城野草散策の会

野草スケッチ ノジスミレ（スミレ科）



1996/04/10 稲城市坂浜 絵と文 Ta

田んぼの周りは面白い。

雑木林や畑や市街地とは一味違う植物が見られるフィールドだ。

植物が生きていく上で、水と光は欠かせない。

田んぼには、どちらも十分あるように見える。

会報第76号 2011年4月16日発行 発行責任者 尼子 房夫

ところが、地面を這うような小さい草から見ると、数10cmの雑草が生えている土地は、ジャングルの中と同じく、光も風も遮られた、住むに耐えない環境なのだ。

人間の視点とは異なるのである。

小さな草にまで十分な日光が射しこむようにするためには、草刈が必要だ。

田んぼの畦は、こまめに草刈が行われる場所でもある。

稲城市には畑や田んぼがまだかなり残っている。

名産の梨畑は当然として、市街地内でもメイン通路から脇へそれたところに田んぼがある。

春先、街中でゲンゲが咲いていたり、セリ摘みをする人に出会ったりすることもある。

しかし、「面白い」のは、雑木林を背負った地域の田んぼだ。

雑木林の周辺には傾斜があり、凹凸がある。

水平に畦を作れば、自然に曲がった畦になる。

段々畑のような田んぼができる。

曲がったままの畦は、耕地整理の洗礼を受けずに、何百年もその形だったにちがいない。

田を耕し、畦を刈り、イネを収穫する作業が営々と続けられてきたことになる。

考えて見ると、これはすごいことなのだ。

小さな草にとっての環境が、数十、数百年にわたって、同一のまま保たれていたことになる。

日本のような高温多湿地帯では、放置すればたちまち雑草だらけになり、やがて木が生え、森林になってしまう。

回りを見渡してほしい。

同じ環境が100年以上にわたって保たれている場所がありますか？

同じ環境が続けば同じ植物が生える。

自然とはそうしたものだ。

いま、田んぼで見られる植物・・・田んぼ雑草などと呼ばれているが・・・は、何百年、いや、何千年も前からそこに生えていたのである。

田んぼの生態は、人の営みと自然とが織りなした、一大ページェントなのだ。

ノジスミレは、谷戸田の曲がった畦道に咲いていた。
きれいに草刈された畦は、ねころんでも気持ちがいい。
春の日差しを浴びながら、ノジスミレと語らうような気持ちでスケッチした。
至福のひと時であった。

スケッチしながら、上で述べたような、畦の歴史と環境について漠然と考えた。
たとえ千年続いた環境だとしても、壊すことは簡単だ。
ほったらかしにすれば、たちまち瓦解してしまう。
そんな危ういバランスの上に成り立っている。
いま、こうしてスケッチできるのも、篤農家の方たちのたゆまない努力の賜物なのである。

そのことを忘れないようにしたいと思った。
(2000年4月記)

* * * * *

〔観察記録〕 3月27日 裏高尾・日影沢

前日の冷たい強風はすっかりなりをひそめ、好天の観察日和となりました。
日影沢入口の集合場所に40人がおいでになりました。
鉄道の運行状況がはっきりしなかったためか、逆に普段の観察会より、みなさん早めに到着されたように思います。
日影沢に入る橋を渡ってすぐに左の小径に入り、その辺をぐるっと一周します。
木造の観察台のようなものができてから、この小径はちょっと荒れたように思います。

林道に戻って森の図書館を目指します。例年のこの時期なら満開のはずの植物たちが、まだようやく蕾を付け始めたような状態でした。森の図書館から「いろはの森」に入ります。この森にはいろは48種の樹木があるんだそうですが、これは標準和名だけでなく別名も含めての話なのだそうです。ちなみに別名をちょっと挙げると、へいのたまき（あぶらちゃん）、わせび（あせび）、らおぎ（はないかだ）、んまべのき（うばめがし）などなど、あまり馴染みのない別名も入っています。このいろはの森コースは高尾山の頂上近くで4号路につながっているのですが、この日はちょっと登っただけで、交差する林道で森の図書館まで戻ります。

ここで昼食の後、日影沢を城山方面に進みます。30分ほど歩いたところで、リーダーの広沢さんが、

「ここまで説明しながら歩けば1時間ほどかかる予定だったんですが、何も咲いていないので30分しかかかりませんでした。これ以上先に行ってもほとんど何も望めそうにないので、戻ることにします」

とギブアップ宣言。集合場所に戻って早めの解散となりました。

まだ体力に余裕のある人たち20人ほどは、高尾駅まで歩いて戻りました。

いつものことながら、アナウンス、名札貼り、名札回収にご協力いただいた皆様に感謝です。(とーはもん)

▼観察記録(番号順)

(1)マメザクラ、(2)アブラチャン(花)、(3)アズマイチゲ(花)、(4)ヨゴレネコノメ(花)、(5)ウリノキ、(6)ヤマノイモ(実)、(7)カツラ、(8)クサギ、(9)ヤブラン、(10)ニリンソウ(花)、(11)オニタヤ、(12)ヒロハコンロンソウ、(13)コチャルメルソウ(花)、(14)ハナネコノメ(花)、(15)ダイコンソウ、(16)ユリワサビ(花)、(17)キツネノカミソリ、(18)アオキ(実)、(19)サイハイラン、(20)ツヤナシイノデ、(21)セキショウ、(22)ヤブデマリ、(23)キクザキイチゲ(花)、(24)アカハナワラビ、(25)ラショウモンカズラ、(26)セントウソウ、(27)ミヤマフユイチゴ、(28)アオイスミレ(花)、(29)フサザクラ(花)、(30)ヤマグワ、(31)サイカチ、(32)ピナンカズラ、(33)ヤマイタチシダ、(34)センニンソウ、(35)シャガ、(36)イワガネソウ、(37)ヤマヤブソテツ、(38)マルバコンロンソウ、(39)ヤマルリソウ(花)、(40)ヤマトリカブト、(41)キハダ、(42)ヤマアジサイ、(43)キジョラン、(44)アケビ、(45)リョウメンシダ、(46)アオジクユズリハ、(47)タマアジサイ、(48)ハナйкаダ、(49)ツノハシバミ、(50)ミヤマキケマン、(51)ハカタシダ、(52)マユミ、(53)モミジイチゴ、(54)キブシ(花)、(55)キランソウ、(56)イワボタン、(57)セントウソウ(重複、花)、(58)レモンエゴマ、(59)ヤマネコノメソウ(花)、(60)カヤラン、(61)コクサギ(実)、(62)フジキ、(63)コアカソ、(64)オオツツラフジ、(65)イヌガヤ、(66)バイカウツギ、(67)チドリノキ、(68)ミツバウツギ、(69)ウバユリ、(70)イワウメツル、(71)ギンレイカ、(72)ナギナタコウジュ。

▼参加のみなさま、お疲れさまでした。

今年の陽気はどうなっているのか、例年なら百花繚乱といえるほどなのに、「春まだ浅き裏高尾」でありました。

まあ、そのおかげで葎が赤いハナネコノメをきちんと見る事ができましたし、シーズンが終わったと思っていた冬芽も楽しむことができました。

オプションで高尾駅まで歩きましたが、梅が真っ盛りだったほか、オキナグサやキバナノアマナなどを見ることができ、これも楽しいコースでした。(T a)

例によってGPS 地図を貼り付けます。



〔紹介〕 冬芽ハンドブック

稲城野草散策の会の世話役・広沢さんが初のハンドブックを刊行されました。

発行：文一総合出版、解説と絵：広沢毅、写真：林将之、定価：1260円

林将之さんは、「葉で見わかる樹木」、「樹皮ハンドブック」、「紅葉ハンドブック」でおなじみの方です。

＜本書の特長＞

- 鮮明な冬芽のスキャン画像を多用した、ビジュアルな紙面。
- 冬芽画像を一覧掲載した、初心者にも調べやすい検索表。
- 冬芽や葉痕、枝、幹の特徴を、比喻を交えて紹介した解説。

書店で右のような本を見かけたら是非ご購入下さい。



〔行事予定〕 2011/4/16（土） 三沢川下り

項 目	説 明
集 合	am10時、京王相模原線・若葉台駅 改札口付近 ※会旗目標 若葉台駅の改札口は一個所だけです
交 通	京王線調布駅から相模原線橋本行快速または各停で5駅目 多摩モノレールの場合、多摩センター駅で京王線に乗換えて2駅目 小田急線の場合は、永山駅または多摩センター駅で京王線に乗換え 若葉台駅には急行は停まりませんのでご注意ください
行く先 (解散場所)	若葉台駅から三沢川に沿って稲城駅まで歩きます。 稲城駅 pm4時頃解散予定
見所 その他	三沢川流域には雑木林や谷戸田など、豊かな自然が残っています スミレ、ジロボウエンゴサク、イチリンソウ、タマノカンアオイ、 クチナシグサ、ノジスミレ、ゲンゲ、ふれあいの森でヤマルリソウ などの花が見られると思います
地 図	
コース	若葉台駅→稲城高校前→稲城ふれあいの森周辺→天神台→高勝寺→ 清水谷戸→駒沢学園→百村→京王稲城駅（解散） 行程5～6km、アップダウンはほとんどありません コースは天候その他により変更する場合があります

※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円

〔行事予定〕 2011/5/14（土） 浅間山・野川公園

項 目	説 明					
集 合	am10時、京王バス浅間山公園バス停付近（新小金井街道） ※会旗目標					
交 通	京王線東府中駅から武蔵小金井駅南口行きバス(1時間に3本程度) JR中央線武蔵小金井駅南口5番乗り場から東府中行きバス(1時間に3本程度) 東府中駅から徒歩で、約1.6km(30分?) <table border="1"><tr><td>京王線 東府中駅</td><td>—— (3バス停) ——</td><td>京王バス 浅間山公園バス停</td><td>—— (8バス停) ——</td><td>JR 武蔵小金井駅</td></tr></table> 新小金井街道	京王線 東府中駅	—— (3バス停) ——	京王バス 浅間山公園バス停	—— (8バス停) ——	JR 武蔵小金井駅
京王線 東府中駅	—— (3バス停) ——	京王バス 浅間山公園バス停	—— (8バス停) ——	JR 武蔵小金井駅		
行く先 (解散場所)	浅間山公園から多摩墓地を抜けて、武蔵野公園、野川公園まで歩きます。「野川公園一の橋」バス停付近 pm4時頃解散予定					
見所 その他	ムサシノキスゲ、キンラン、ササバギンラン、ジュウニヒトエなどの花が見られると思います					
地 図						
コース	浅間山公園→多摩墓地→武蔵野公園→野川公園→「野川公園一の橋」バス停付近（解散） コースは天候その他により変更する場合があります ご用のある方は途中で抜けても構いません					

※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円

〔行事予定〕 2011/6/26（日） 神代植物公園

項 目	説 明
集 合	am10時、神代植物公園正門前 ※会旗目標
交 通	・ 京王線調布駅 北口ロータリー・パルコ前 小田急バス 13番乗り場 吉祥寺行、三鷹行 京王バス 14番乗り場 深大寺行 ・ 京王線つつじヶ丘駅 北口 京王バス 深大寺行 ・ 中央線三鷹駅 南口 小田急バス 5番乗り場 調布行 小田急バス 4番乗り場 深大寺行 ・ 中央線、京王井の頭線吉祥寺駅 南口丸井デパート前 小田急バス 4番乗り場 調布行 小田急バス 6番乗り場 深大寺行 ＊ いずれも「神代植物公園前」下車。バスの乗車時間は約20分から25分程です。
行く先 (解散場所)	神代植物公園内観察、調布野草園観察 調布野草園pm4時頃解散予定
見所	樹木、水生植物
地 図	

※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円

神代植物公園入園料500円（65歳以上250円）各自負担